

## ○ 委員長報告

1 2 月定例本会議で報告された経済企業委員長報告は、以下のとおりです。

平成 2 8 年 1 2 月定例会

### 経済企業委員長報告

報告いたします。

当委員会に付託されました議案の審査結果は、お手元に配付されております委員会審査報告書のとおりでありまして、いずれも原案のとおり可決決定されました。

以下、審査の過程において論議された主な事項について、その概要を申し上げます。

まず第 1 点は、県内のセルロースナノファイバー（CNF）の取り組みについてであります。

このことについて一部の委員から、新聞報道によると大王製紙で CNF の開発があったとのことであるが、県の取り組み状況はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、日本初の CNF 産業県を目指すため、「愛媛 CNF 関連産業振興プロジェクト」を推進しており、産業技術研究所が中心となり試作開発に取り組む「分野別部会」として複合材料、食品産業、繊維産業、紙産業の 4 部会に 19 社が参加し、6 月から順次開催しているほか、7 月には国の産業技術総合研究所、大王製紙、帝人などアドバイザー参加の下「第 1 回検討会」を開催し、今後の方向性について意見交換を行った。

本事業の成果として、11 月には大王製紙やヤマセイが共同で開発を行い、産業技術研究所も技術協力した「シート状 CNF」の開発報告会を開催したところである。

本県が今後の市場をリードするため本県独自のバイオマス資源を活用した CNF 製造、評価、分析、さらには地場産業を活かした実用化までを県内で行える体制を整備し、最終製品を見据えた試作開発を行うことにより、「CNF 産業県 愛媛」の実現を目指していきたい旨の答弁がありました。

第 2 点は、総合観光プロモーションの実施状況についてであります。

このことについて一部の委員から、全国的にもプロモーション活動は活発に行われているが、今年度の総合観光プロモーションの実施状況はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、本県では、インパクトのあるキャッチコピーを軸とした総合的な観光プロモーションとして、昨年度から、「アイチじゃないよ、

エヒメだよ！」を用いて、共に県名に「愛」がつく愛知県と連携したプロモーション活動を展開しているが、今年度は、その第2弾として、「愛媛はヒメ旅」として、温泉・歴史文化・グルメを楽しむ女子旅にスポットをあてた活動を展開している。

また、10月から3か月間、大手宿泊予約サイトとタイアップして割引キャンペーンを展開しているほか、今月には、名古屋のアンテナショップにおいて、クリスマスオレンジをテーマにした本県のPRを実施することとしている。

今年の地域ブランド調査では本県の全国順位が上がってきており、今後とも、観光だけではなく県全体のイメージアップを図っていくため、ご当地キャラクターや豊かな農林水産品等を強力なコンテンツとして、SNSやフェイスブックなども活用しながら効果的な愛媛の情報発信に取り組んでいきたい旨の答弁がありました。

第3点は、高額医薬品の利用状況についてであります。

このことについて一部の委員から、高額な「オプジーボ」という薬が半額になるとの報道があったが、県立病院での影響はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、今回報道のあった「オプジーボ」は、がんの治療薬であるが、1人当たりの治療に年間3千万円以上を要する非常に高額な薬で、医療費の膨張を防ぐため、薬価が引き下げられることとなった。

治療に際しては、がん診療連携拠点病院の指定を受けていることや、該当疾病に関する指導医が在籍していることなど、医療の安全のため、メーカーが多くの要件を定めていることから、県立4病院のうち、扱うことができるのは、県立中央病院のみとなっている。

また、当初に治療承認を受けた症例以外にも、適用症例が拡大しているが、対象疾患が限られていることから、利用が急激に増加することはないと聞いている旨の答弁がありました。

このほか、

- ・エネルギー政策の現状とあり方
- ・仕事と家庭生活の両立支援事業
- ・四国4県の県立中央病院等の災害時相互応援協定
- ・工業用水道施設の耐震化

などについても、論議があったことを付言いたします。

以上で報告を終わります。